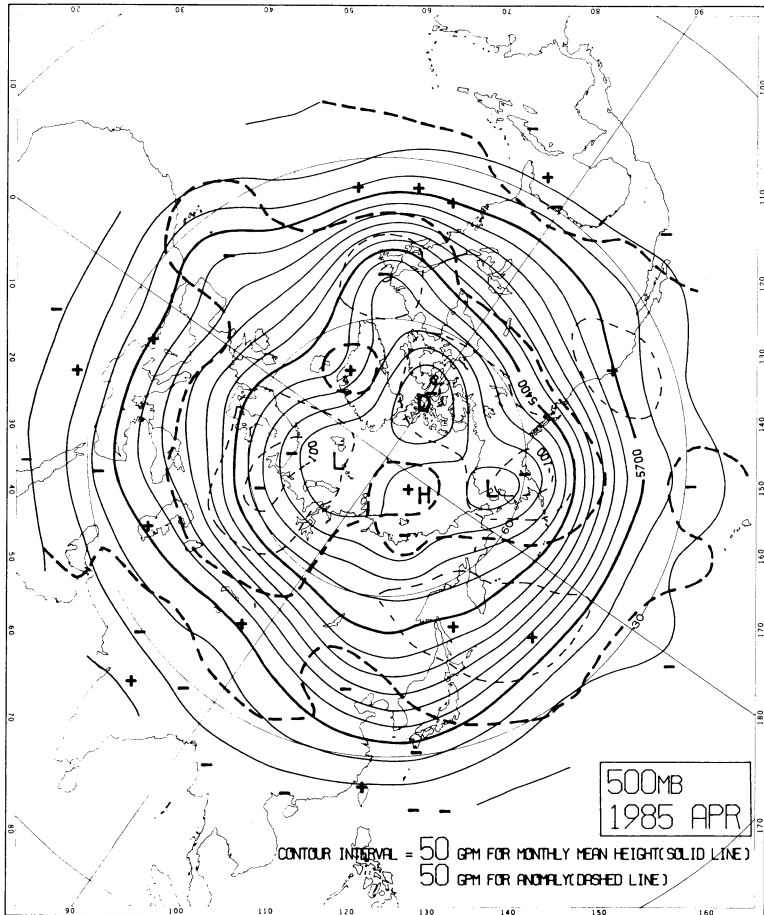


月平均500mb 天気図. 1985年4月.

(破線は平年からの偏差. 単位m)



半球的に強い東西流型循環が続く

東西指数 (40° N帯と60° N帯の高度差) から見た半球的な流れは、東西流型が続き4月としては戦後2番目に強い高指数* となった。最も東西流型が顕著であったのは、ヨーロッパ～アジア西部域と、東太平洋～北米域で共に戦後第1位の記録的な強さであった。

このためイタリア、トルコから中央アジアにかけては平年の月平均気温を2～5°Cも上回った。とくにアメリカは月平均気温偏差が標準偏差の2倍を越える異常高温である。これに対し、北欧やアラスカなどの高緯度地方は平年を2～11°Cも下回る異常低温となっており、強い東西流型循環が地上気温の著しい南北コントラストをもたらしている。

一方、東アジア域だけは高緯度が正偏差に覆われ、3月の強い高指数から低指数* へと変わった。しかし40° Nを中心にした西谷(日本の西側にトラフがあること)は変わらず、日本の上では西南西の流れとなり気温は高めで推移した。

今月のように半球的な流れと東アジア域の流れが逆の型になることは珍しく、4月については過去39年間に7回あるのみである。

* 高(低)指数: 平年より東西(南北)流型が卓越した状態をさす。

(気象庁長期予報課 河原幹雄)